

2013 年 7 月 28 日発生 of 中国地方豪雨で被災した文化財調査報告書

報告者 災害担当理事 日高真吾

調査日：2013 年 8 月 28 日、8 月 29 日

調査場所：萩博物館（8 月 28 日）萩市立須佐歴史民俗資料館（8 月 29 日）

8 月 28 日の萩博物館での打ち合わせ

打ち合わせ者

萩博物館：樋口尚樹（副館長）、清水満幸（総括学芸員）

NPO 法人萩まちじゅう博物館：須子義久（副理事長）、山田齋亨（さいこう）（装演師）

文化財保存修復学会：日高真吾

国立民族学博物館：和高智美

歴史資料ネットワーク：松下正和、川内敦之

打ち合わせ内容

1. 現状の報告

①萩市立須佐歴史民俗資料館の状況

・1 階部分が浸水し、1 階で展示していた民俗資料等が水損。また、隣接する益田館（萩市指定文化財）も床上浸水し、展示資料が水損。その後、8 月から萩市立須佐歴史民俗資料館のスタッフ、萩市博物館、萩まちじゅう博物館、防府市職員の有志を中心に建物から屋外へ救出、一次洗浄を実施し、ほぼ全点の洗浄作業は終了。このときの作業指導は、山口市在住の装こう師山田氏を中心に実施。現在、山田氏は地元絵師が描いたふすま等の応急処置を萩まちじゅう博物館のメンバーとともにおこなっている。

現在、台帳と資料の突合せ作業を萩市立須佐歴史民俗資料館スタッフが中心となって実施。

・懸念していた 2 階部分の浸水はなく、古文書資料の無事を確認。収蔵庫機能も正常に稼働していることから、通常通りの保管。

②今後の課題

・施設復旧まで町内の体育館施設に一時保管することが決定。それまでに、除去しきれなかった泥の洗浄および、錆が著しい資料への錆止め作業をおこないたい。その場合、作業の中心は、「萩まちじゅう博物館歴史班」となる。また、今後、個人宅からの古文書受け入れをおこなうことの可能性が高いのでその場合の処置法についてこれまでの被災古文書の活動に関する情報がほしい。

2. 今後の活動

・国立民族学博物館がおこなっている「連携研究経費」から、民俗資料の洗浄作業と錆止め作業について、ワークショップを実施し、連携を図る。

・このワークショップに合わせて、これまでの被災文化財のレスキュー活動について簡単な報告会を開き、作業者との意見交換を図ることは可能なので、今後の協議事項とする。

3. その他

・文化財防災ウィールを 10 部寄贈。地元での活用を依頼。

萩博物館内トラックヤード付近に設けられた応急処置現場写真



8月29日の萩市立歴史資料館での打ち合わせ

打ち合わせ者：

萩博物館：樋口尚樹（副館長）、道迫真吾（主任研究員）

NPO 法人萩まちじゅう博物館：須子義久（副理事長）、山田齋亨（さいこう）（装演師）、
フキアゲ氏（歴史班リーダー）

文化財保存修復学会：日高真吾

国立民族学博物館：和高智美

歴史資料ネットワーク：松下正和、川内敦之

打ち合わせ内容

1. 現状調査

①萩市立須佐歴史民俗資料館の状況

・1階部分が浸水し、約1mから1.2mまで浸水。現在、洗浄した資料は展示資料室内にブルーシートを引いて乾燥、保管。職員の方が扇風機で風を当て乾燥させ、カビの発生の有無を確認しつつ、保管。カビが発生した場合は、エタノールで洗浄し、乾燥させて保管しているとのことである。かなり、細かな資料点検を実施しているようで、カビ等の発生は現在、見られない。ただし、室内壁面、ウォールケース内は黒カビ等が大量に発生し、保管環境としては適していない。

②益田館（萩市指定文化財）の状況

・1階部分は畳みあげし、土砂等の書き出し作業をおこなっている。2階部分は浸水していないので、そこで展示していた資料はそのまま保管。

・板戸には、板絵が描かれているものの、対応できず被災した状況で自然乾燥中。ふすまも外したのち、そのまま壁に立てかけて保管。破損箇所からは下張文書が観察される。今後、益田家館の再建でこれらの板絵やふすまがどのように利用されるかは、文化財保護課の担当なので現状は分からない。ただし、板絵については何らかの処置が必要と考えている。今後は、文化財保護課と連絡調整したい。

2. 今後の活動

①被災した民俗資料については、前日の打ち合わせ通り、民博と共同したワークショップを実施。事例報告会についても積極的に実施を検討。実施は10月10日前後で調整を図る。（この報告会については文化財保存修復学会の例会として学会員からの報告をお願いしたいと考えている）

②益田家館の板絵については、文化財保存修復学会に要請し、修理設計を実施したうえで、文化財保護課との調整する可能性を今後、さらに継続打ち合わせをおこなうことを確認。その際、予算的なことも勘案し、応急処置レベルの設計もあわせて提示してほしいとの要望あり。依頼文については、萩博物館の方で調整して、近日中に学会に提出予定。

③個人宅からの古文書レスキューについては、地元で再調整をおこない、実施できる環境が整ったところで、歴史資料ネットワークと連携しながら作業を行う。

須佐地区付近様子



須佐歴史民俗資料館外観



資料館 1 階部分



著しく錆が発生した資料とケース内に発生したカビ



2 階部分の様子



益田館 1 階



益田館 2 階



被災した板絵

